（一社）日本臨床耳鼻咽喉科医会
令和 8・9 年度第 2 回理事会　議事録（摘録）

令和 8 年 7 月 5 日（日）10：00～13：15（臨床耳鼻科医会会議室）

出席者 会長：川嵜良明　　副会長：藤岡治、野上兼一郎、松岡徹

理事：相澤直孝、朝比奈紀彦、市川菊乃、井藤博之、大滝一、大道卓也、
木村百合香、塩見洋作、滝沢昌彦、楯谷一郎、玉木克彦、中条恭子
兵庫美砂子、宮部和徳、横田雅司

監事：浅井英世、中澤宏　（計 19 名）　　事務局：井出あゆみ、平間妙子

会長挨拶

今後の 2 年間、緊密に連携を取り忌憚のない意見を頂戴したいと思っている。

1. 運営方針について

(1)「点数一覧表」の復刻改訂版の発行

(2) 会員情報システムならびに会費徴収システムのさらなる整備

(3) 難聴啓発キャンペーンの成功を目指した日耳鼻と協働での推進活動

(4) 委員会活動の活発化ならびに会員に届く事業の展開

(5) アフターコロナ時代に向けた医療経営安定化に関する会員への情報提供

(6) 難聴対策推進議員連盟への積極的な参加、並びに難聴対策基本法の成立に向けた協働

(7)「耳鼻咽喉科頭頸部外科医療の未来プラン」に沿った耳鼻咽喉科医療の未来像の検討

(8) 日耳鼻のワーキンググループ（以下、WG）への積極的な協力

日耳鼻の執行部交代により、WG の構成に変更が生じる可能性がある。また日耳鼻の地域医療委員会が廃止され、臨床耳鼻科医会（以下、耳鼻科医会と略す）の重要性が増していくと考えられる。

(9)「HPV ワクチンの積極的勧奨再開を目指す議員連盟」、日本医師会の活動への積極的な参加

2. 学会・医会連携会議について

(1) 連携会議において令和 8・9 年度は耳鼻科医会が会議運営を担当する。

(2) 耳鼻咽喉科診療の拡大、学会・医会の協働について議論する。

(3) 委員は学会、医会ともに 4 名ずつ選出する。

3. 委員会について

担当理事が交代しても事業継続に支障を生じないよう、留任した委員より委員長を選出し事業継続性を高めている。

4. WG 設置について

必要に応じて WG を設置していく方針である。また、前述したように日耳鼻 WG にも積極的に参加していく方針である。

協議事項

1. 理事会日程について（川嵜会長）

当会の理事会は日曜 13～16 時に開催するのが通常である。

全国都道府県医会長会議は 11 月 10 日に開催予定である。対面での会合を目指しているが、本年度は実現が難しく、Web による会合を予定している。

2. 令和 8・9 年度臨床耳鼻咽喉科医会委員会構成について（相澤理事）

会員管理システムが稼働したばかりで、会員管理システムという項目を一時的に作成し業務担当は松岡副会長、担当理事は相澤理事となることを提案し了承された。

新理事が就任し委員も新たに選出されたが、委員会構成につき一部の変更を行いたい。複数の委員会が関与することとなるため、調整にしばらく時間がかかる見込みである。

3. 全国都道府県医会長会議の開催について（川嵜会長）

会長挨拶で言及した通りで、今年度は Web での会議とし、日程は 11 月 10 日（火）を予定している。

4. こどもの言語発達スクリーニングうちわについて（兵庫理事）

3～5 歳の幼児が獲得すべき構音を均等に検査できる図案を選択した。日耳鼻 HP 上にうちわ表面裏面の印刷ができる PDF ファイルを掲載予定である。会員全員に郵送するのは費用負担が大きく困難であろうと考えている。学校健診でも使用可能であるか学校保健委員会と協議を予定したい。

5. 病院勤務耳鼻咽喉科医勤務実態調査事業について（塩見理事）

病院勤務の耳鼻咽喉科医師、特に診療部長・科長等の勤務実態について全国的な実態把握を検討している。対象は病院に勤務する耳鼻咽喉科診療部長・科長で、方法はメールでのアンケートを予定している。アンケートの内容については委員会で協議し、結果の集計・分析は勤務医委員会と合同で行うことを検討している。なお、本調査は実態把握を目的とするものであり、個別案件への介入等を目的とするものではない。

勤務医の会員数の観点から、日耳鼻の倫理委員会の了承を得たうえで日耳鼻にアンケートを依頼する方針とする。

6. 旅費等支給基準、旅費規程の見直しについて（塩見理事）

現行の旅費等支給基準について、運賃改定や宿泊費高騰により実費との乖離が生じている。委員会で協議を重ね、交通費及び宿泊費の見直し並びに旅費規程の一部改正を提案する。本改訂の施行日は、7 月 4 日とする。（塩見理事）

7. 会報委員会より（宮部理事）

（1）会報第 7 巻第 1 号について

会報第 7 巻第 1 号の掲載内容については、例年通りを予定している。勤務医調査や地域医療委員会の経営調査も掲載する方針とする。

（2）投稿規定について

学術論文を掲載するものではないので、文体の統一などの簡略な投稿規定を作成する。

8.「新たな診療スタイルのクリニック提案」事業について（野上副会長）

日耳鼻の近未来 WG に「新たな診療スタイルのクリニック像の提案」の部門があり、令和 8・9 年度からは事業を臨床耳鼻科医会が引き継ぐことになった。広報委員会と勤務医委員会の委員で WG を発足して活動する予定である。

9. 委員候補の一覧作成について（相澤理事）

耳鼻科医会の組織性向上を目指すうえで委員会構成の地域均衡や若年化が必要と考える。今後、庶務委員会にて討議検討した後、あらためて理事会にて提案させていただきたい。

10. テーストディスクに関する覚書（川嵜会長）

セオリアファーマ社がテーストディスク製造の準備を始めている。同社より日耳鼻並びに耳鼻科医会より協力を得られる旨の確認書の締結を依頼された。確認書について日耳鼻と合同で締結する方針である。味覚検査の保険診療点数が低く、今後の保険診療改定にむけて日耳鼻と協働していく。

11. 第 40 回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科秋季大会の抄録等に関して（川嵜会長）

日耳鼻より、抄録集について内容を大幅に改訂したいとの意見があり、当会としては、プログラムは印刷して、抄録は PDF にしてオンラインで取得することを日耳鼻に提案する。

報告事項

1. 庶務委員会（相澤理事）

（1）令和 6・7 年度第 12 回理事会議事録（2026.4.19）について報告した。

（2）令和 8・9 年度第 1 回理事会議事録（2026.5.20）について報告した。

（3）令和 7 年度定時代議員会議事録（2026.5.20）について報告した。

（4）令和 8 年度臨時代議員会議事録（2026.5.20）について報告した。

（5）入会・退会・異動および会員数を報告した。

入会 26 件、異動 32 件、退会 27 件があり、令和 8 年 5 月 31 日現在 A 会員 4,138 名、B 会員 2,945 名、C 会員 9 名、計 7,092 名であった。

（6）都道府県医会未入会者について報告した。

10 名の会員が異動などにより都道府県医会の所属変更を行わないといけないにもかかわらず連絡を取っていないため未入会となっていることを報告した。事務局と連携し、当該医会事務局と連絡を取っていく方針であると報告した。

2. 広報委員会（井藤理事）

（1）ホームページの会長挨拶・会員名簿・都道府県医会長を更新した。

（2）ホームページに「会員マイページ」バナーを作成した。

（3）ホームページの会員名簿の賛助会員のページに「マキチエ」のバナーを作成した。

（4）ホームページの役員・組織の更新をする予定である。

3. 経理･会員福祉委員会（塩見理事）

令和 8 年 5 月末までの会計について報告した。

4.地域医療委員会（横田理事）

日耳鼻と合同で行っていた活動が今年度から耳鼻科医会の事業に集約され、日耳鼻メンバーであった 2 名の先生が新たに耳鼻科医会のメンバーとして加わった。

5. 保険医療委員会（玉木理事）

（1）令和 6・7 年度第 11 回保険医療委員会について報告した。

① 報告事項

（ｱ）医薬品一時供給停止，販売中止と代替品について

（ｲ）第 21 回保険医療委員会全国協議会のお知らせと議題提出について

9 月 27 日に開催予定の全国協議会の案内は各都道府県医会長へ発送済である。

（ｳ）全国協議会の各ブロック担当表

（ｴ）シダキュアの 2026 年出荷量増加について

（ｵ）ソルコーテフ静注用、注射用の限定出荷の解除について

（ｶ）ネオメドロール EE 軟膏の限定出荷について

（ｷ）出荷停止中のインタール吸入液の供給再開時期延期について

② 協議事項

（ｱ）令和 6・7 年度第 10 回保険医療委員会議事録の承認について

（ｲ）令和 8 年社会保険診療報酬改定伝達会議資料の作成について

（ｳ）令和 8・9 年度外保連のスケジュールについて

（2）令和 8 年社会保険診療報酬改定の伝達会議（2026.4.26）ついて報告した。

①今回の診療報酬改定について解説した。

② 特別講演として、厚生労働省保険局医療課の林修一郎課長より「令和 8 年度診療報酬改定の概要」につきご講演いただいた。

③ 頭頸部悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算につき松塚崇先生より解説いただいた。

④ 鏡視下上咽頭・中咽頭・下咽頭腫瘍摘出術および内視鏡下手術用支援機器加算について楯谷一郎委員より解説があった。高度急性期病院における内視鏡手術用支援機器加算についても解説いただいた。

6. 学校保健委員会（朝比奈理事）

令和 6 ・7 年度第 8 回学校保健委員会について報告した。

（1）報告事項

① 日本医師会学校保健委員会報告

会長諮問に対する同委員会答申が公表された。「健診実施時期（6 月 30 日まで）の柔軟化」および「学校医や健診医不足への対応策のひとつとして重点健診の考え方の応用」が答申に含まれている。耳鼻咽喉科としては全員健診が円滑に実施されている地域はそれを維持することを目標とし、決して安易に重点的健診に随順することがないように注意深く見守ることを日本医師会に対して再確認し、この改正に対して安易に重点健診に移行することがないような「附則」を加えることを文部科学省に提案している。

② 日本学校保健会報告

「難聴の児童生徒への聞こえの支援：令和 7 年度版」が発行された。日本学校保健会ポータルサイトで公開されたほか、都道府県・市町村教育委員会および公立学校に冊子が配布された。

(2) 協議事項

①「耳鼻咽喉科健康診断マニュアル　2025 年改訂第 2 版」発行について

既に製本されている 500 部に加え 1,000 部を発注することとし、本年度耳鼻科医会予算から決済することになった。

② 令和 8 年度学校保健全国代表者会議ならびに学校保健研修会について

(ｱ)「耳鼻咽喉科学校健診への対応～大学附属病院勤務医の学校健診参画状況について～」

(ｲ)「通常学校に在籍する難聴児童生徒に対する耳鼻咽喉科学校医の関わりについて」

(ｳ) 研修会について

大沼直紀先生（一般財団法人日本財団電話リレーサービス理事長）に講演を依頼している。

③第 127 回日耳鼻総会：未来ビジョン報告

④「学校のアレルギー疾患に対する取り組みガイドライン」改訂委員推薦について

耳鼻科医会より国際医療福祉大の岡野光博教授を推薦した。

⑤ 耳鼻咽喉科学校健診：疾患名・判定基準の見直しに伴う対応について

学校健診はスクリーニング検査であるため「耳垢等で鼓膜の検査ができない」は「耳垢栓塞」も少なからず含まれている可能性があり、受診先の医師の判断で「耳垢栓塞」が妥当と判断した場合は「耳垢栓塞除去」で算定、保険請求できるとした。その際は保護者への説明に十分留意する必要がある。これらについては医会・学会 HP に掲載し、注意喚起する予定であることを報告した。

⑥ 学校におけるネフィー・スピジア投与について

アナフィラキシーショック時のアドレナリン点鼻薬（ネフィー®）、てんかん発作時のジアゼパム点鼻薬（スピジア®）が発売され、ネフィー®に関しては、学校での使用が想定されることが報告された。

⑦ 自見はなこ参院議員：令和 8 年度 5 月活動報告から

7. 福祉医療・成人老年委員会（大滝理事）

日耳鼻に難聴対策推進 WG が発足し、当会から大滝理事と山田浩之会員が委員となった。今後も協議を続け、難聴対策推進議員連盟と協力し難聴対策基本法の成立を目指すことを報告した。

8. 福祉医療・乳幼児委員会（兵庫理事）

(1) 第 14 回日耳鼻・耳鼻科医会合同福祉医療・乳幼児委員会について報告した。

(2)【ピボキシル基を有する抗菌薬投与による低カルニチン血症】に関するアンケートについて報告した。

結果については概略をホームページに掲載する予定である。

(3) ピボキシル基を有する小児用抗菌薬の「使用上の注意」の改訂について

上記（2）に関連し令和 8 年 6 月 30 日付で「ピボキシル基を有する抗菌薬投与による小児等の重篤な低カルニチン血症、重篤な低血糖について（続報）」が PMDA より発出された。

9. 医療安全・医事問題委員会（大道理事）

当委員会では事故を起こさないための重要な報告を行っており、今後もその方針を踏襲していく。また、発生した時の対処にも取り組んでいく。

10. 勤務医委員会（中条理事）

特になし

11. 学術委員会（滝沢理事）

特になし

12. 会報委員会（宮部理事）

（1）令和 8・9 年度第 1 回会報委員会報告

（2）日本臨床耳鼻咽喉科医会会報第 7 巻第 1 号発行までのスケジュール

（3）会報第 7 巻第 1 号の掲載内容（案）

（4）投稿規定の作成

13. 地域ブロックから

特になし

14. 川嵜会長より(活動報告)

（1）第 1 回学会・医会連携会議

令和 8 年 5 月 21 日に開催され、以下の議題について協議した。

①前回議事録確認

②会議の進め方について

③連携会議規約の見直しについて

④令和 8 年度臨床研究スタートアップ助成の公募について

⑤2025 AC ジャパンキャンペーンについて

⑥令和 8 年度診療科偏在対策のための適切な遠隔医療等推進事業について

⑦スマートフォンを用いたウェブ調査について

（2）エピシルの医科での使用について厚労省と面談

（3）抗菌薬による低カルニチン血症について PMDA と面談

本件につき 6 月 9 日と 26 日にオンラインで面談を行った。本件については兵庫理事に尽力いただいた。該当薬の使用禁止は避ける方針で検討する。

(4) 東京都耳鼻咽喉科医会代表者会議

6 月 13 日に開催された同会議に招待され参加した。

(5) 補聴器キーパーソン全国会議、福祉医療サマーセミナー

6 月 21 日に開催された同会議に日耳鼻の中川尚志理事長と共に出席した。合同委員会であり、耳鼻科医会長として挨拶を行った。

(6) 日本産婦人科医会名誉会長木下勝之先生お別れの会

15. 藤岡副会長より

（1）日本めまい平衡医学会からの依頼について

日本めまい平衡医学会からの Webinar に関する案内について広報委員会・学術委員会

と協議し、会員一斉メールと HP 掲載にて耳鼻科医会一般会員へ周知した。今後、日耳鼻関連学会から同様の依頼があった場合は積極的に受け入れる方針である。

(2) ハンドブック WG の構成員について

該当する委員会の各理事が構成員として任命されることになった。委員会の中での具体的実務は委員の協力を得ながら進めることとなる。

(3) OTC 類似薬に関する技術的検討会について

上記検討会において、該当 OTC 類似薬（77 成分）の医療保険上の薬剤自己負担の見直しが検討される。7 月から 8 月に計 4 回の開催が予定され、耳鼻科医会から委員（構成員）として参加する。診療で混乱しないような形式にすることを検討課題とする。

16. 野上副会長より

今年度より日耳鼻の地域医療委員会が廃止となった。その理由となった日耳鼻並びに耳鼻科医会の地域医療委員会の変遷に関して報告した。

17. 松岡副会長より

会員情報管理システムの進捗状況について、令和 8 年 6 月 29 日現在のログイン完了率は 31.6%であった。次の対応としては、会費徴収機能の使用を希望する都道府県医会に対し、医会毎の会員種別と会費額を調査し、会費を設定する予定である。